

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスはっぴいす		
○保護者評価実施期間	令和7年12月11日		令和7年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 4人	(回答者数)	3人
○従業者評価実施期間	令和7年12月11日		令和7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4人	(回答者数)	4人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域貢献活動(津祭りなど)の参加ができること	商品リサーチとしてショッピングモールに行ったり、利用者様と熟考しながら取り組んでいる。津まつりの本番では店員さんとして参加できるようお買い物練習をしたり電卓を扱う練習にも取り組んでいる。別日には工作をする日を設け作品作りの為の練習をしたり作品作りに取り組んでいる。	今年度津まつりに参加し、反省点を活かして来年度は更に良い出店になるよう取り組む。
2	多彩なカリキュラムの導入	月曜日から金曜日まで色々な活動に取り組めるようにしている。	保護者や児童の意見も聞きつつより良いカリキュラムを組めるようにしていく。
3	学童との併設で学童の利用も可能	放課後等デイサービスを利用して学童の割引制度を設けている。	施設の増設。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との日常的な情報共有が十分言えない場合がある。	・送迎時の限られた時間のみでの対応となっていること。 ・記録や連絡方法が統一されていないこと。	・連絡帳や面談の機会を活用し、定期的な情報共有を行う。 ・保護者が相談しやすいタイミングや環境づくりについて更に工夫をしていく。
2	児童が怪我をした際の細かいマニュアルがなかった。	・職員間での緊急時対応手順の仕方の共有が不十分である。 ・怪我や事故を想定した研修、訓練の機会が不足していること。	・怪我や事故発生時の対応マニュアルを整備、見直しし初期対応、連絡手順、役割分担を明確化する。 ・緊急連絡先をすぐ確認できる場所に掲示、携帯工夫をする。 ・実際の事故を想定したロールプレイングやシミュレーション訓練を行い、判断力と落ち着いた対応力を養う。
3			